

## 第 20 回子ども・子育て会議の意見一覧表

## ●子ども・子育て支援事業計画に基づく施策の進捗状況について

- ① 一時預かり事業について、待機児童の定期的利用が多く、一時預かり本来の役割が果たせずキャンセル待ちとのことだが、受け皿を増やすことや利用枠の調整など、ハード面だけでなく人員などのソフト面なども考える必要がある。
- ② 現在、町では病児保育の実施はしていないようだが、病児保育や病後児保育がもっと充実していると何かあった時に助かるし、実施された場合でも実施していることを知らない親もたくさんいると思うので、実施していることを認知してもらう方法も大切だと思う。
- ③ 全体的に確保方策の計画と実績値が、大きく離れているものに関して、再考する必要があると思う。
- ④ 数の問題ではなく「今後 5 年間の対応」の項目について、検証するなら、以下のようなことも、再考の余地があると思う。
  - 利用者支援事業での「町内の子育て支援に関わるボランティア団体や NPO 法人等の地域と行政との連携の強化」が進んでいるか。
  - 養育支援訪問事業での「子どもを守る地域ネットワークについて、関係機関との連携強化に努める」ことが進んでいるのか。
- ⑤ 子育て短期支援事業について、町には地域に根付いた養護施設がある。同施設であれば、全く未知の場所にいかずに生活でき、自分の所属する学校にも通うことができる。核家族で生活する子育て家庭も多く、この事業の実施を検討したい。

## ●子ども・子育て支援事業計画に関する中間年の見直しについて

- ① 子どもの人口に関しては、「子ども・子育て支援事業計画」にあるように、平成 23 年以降、減少傾向となっているようだが、平成 29 年度の 1 歳～7 歳の年代を 0 歳の時の人数とそれぞれ比べると、29 人～98 人の幅で、0 歳の時より増えている要因は転入者が多いということか。

- ② 子どもの人口と保育所の確保との関係では（放課後児童クラブ含む）、それまで就労していなかったが、保育所があるなら就労しようとする方の増加を、どのように見込むのが難しい。
- ③ 10%以上の乖離を避けるための、見直し（案）は、0～5歳児の人口推移を見越して、平成30年度と平成31年度を作成されており、これで良いと思う。
- ④ 人口増に対して、増したいのか、減りたいのかの対策を考える必要がある。
- ⑤ 子どもは、人口減で試算しているが、町を子育ての好環境と考え、転入する若い世代の方が多くいる。子育て広場の参加者も、転入者が多く、保育園の見学も転入者が多い。子どもの数が減ることを前提とせず、積極的に増やしていく施策を検討する必要がある。

## ●その他

- ① 事務局の説明の時間が長いと感じる。ポイントをしぼり、各委員の専門の立場で発言できる会議の進行を工夫してほしい。一人一人の発言を求めるという方法ができないか。
- ② 長柄会館にて子育て広場を開催した。広報板への掲載が間に合わず、近隣の方のみの案内だったが、11組22人の親子が参加してくれた。長柄地区の広場について、需要があると考えている。
- ③ 長柄会館周辺には、幼い子どもを安心して遊ばせる公園や児童館がない。葉桜児童館には駐車場がなく、抱っこ又はバギーで長い坂道をのぼり降りしなくてはならない。葉桜やイトーピア地区の公園に行くのも、車が必要であり、車を止める駐車場も確保していない。自宅近くも道路は狭く、車の往来が頻繁であり、急に飛び出す時期の子どもを安心して遊ばせることができない。長柄小学校の近くの町有地（現在ゲートボール場として、使われている土地）を使えないのか。そのようなニーズはある。